

# 鮎

8

AUGUST  
1996



ズーム 第22回豊漁祈願祭

—マダイ・ヒラメ1万5千尾を放流

No.478



## 季節の香

かわり

### 【ルリタマアザミとベニシジミ】

ひとつ二つ三つと小学生が大きな声で数えて駆けていく。花屋でエキノプスと呼ぶルリタマアザミが咲いた。まあるい淡紫色したアザミの一種。道行く人が「珍しい花ですネ」と言いつつ通る。

アザミは用心深く、鋭い棘のある葉で堅固な形をとっている。うっかり触ると泣きを見る。しかし、丸い花は手鞠のようで思わず撫でてみたくなる。

ベニシジミが来てとまる。シジミチョウの中でも鮮やかな色で風格もある。得意げに紅色を披露するように開けてはまた閉じる。小さいけれど、少しも臆すること無く求蜜のポーズをとる。

日射しが少し強く感じられる屋下がりのひととき。花と蝶では絵になりすぎると可愛い舞い姿を見つめている。

# COLUMN

◆「流れに竿さす」とは何かという問題がでる。以前に新聞の見出しで、時流に逆らうという意味で使われていたが、これは「勢いに

乗って調子よく進むこと」だから思い違いをしたのだらう。言葉の思ったものである。片仮名で「ミノンボー/ホコテン/セクハラ/パドル」などを正式な名称に直せという。時の流れに遅れないよう、現代用語にも通じていなければ回答は寛束ないのである。

◆一九七三年に「いったい日本はどうなるのだらう」と言ったのは誰か。流行語に関する問いかけである。昭和天皇の「あつそう」で例題に「止めてくれるなおっかさん/兵隊の位でいうと...?」聴かしながら「投げたらあかん」など、最近の「同情するなら金をくれ」まで、戦後五十年の間に話題となっ

## ことばと遊ぶ

た言葉から人物を探すとという難問であった。

◆日本語の持っている複雑さと、千変万化する言葉から拾りに拾った問題が出される。その仕掛けが楽しく、一度この雰囲気に乗ると止められなくなり遠来の参加者も多い。年に一回の顔合せに互いに元気なことを確認し合う場面もあって盛況を見せる。この日は七十歳以上の参加が十三%もあり、高齢者社会を裏付けていた。因みに最高点は三十代の人で次点は二十代、年齢と共に得点は悪くなる。日本語と遊びながらゲーム感覚を愉しんでいるのである。(遊方子)

## 表紙写真募集

アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記してお送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④自宅電話番号(市外局番号も)⑤年齢・職業  
送り先  
〒六五二 神戸市兵庫区中之島二丁目  
二一 泉立水産会館  
兵庫県漁業協同組合連合会  
指導部指導課「拓水」係宛

拓水

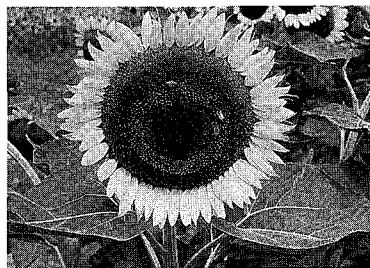
AUGUST

CONTENTS

季節の香	2
ルリタマアザミとベニシジミ	
COLUMN	3
ことばと遊ぶ	
リレー随筆	4
『想うまま』 旅について考える	
水試ノート	5
加工相談	
ズーム	6
第22回豊漁祈願祭 ～マダイ・ヒラメなど稚魚1万5千尾を放流～	
TOPICS	8
平成8年度兵庫県漁業士会通常総会を開催 第74回国際協同組合デー兵庫県記念大会開かれる	
栽培漁業センターです	9
普及員だより	
魚料理の美味しさ楽しさの普及をめざして	
漁海況情報	10
海区漁業調整だより	
旬の美味しい話	11
たこ・わかめ・きゅうりの黄身酢あえ	
兵庫JCC通信	
第2回JA都道府県青年組織委員長・ 事務局合同会議開く 「96市民平和行進」 県内を約6,000人が歩きました	
こちら海ですロケだより	
川のめぐみ円山川の淡水魚 ～兵庫県円山川流域より～	

## 今月の表紙

### フォトギャラリー



表紙写真  
高尾 暁子さん  
〈明石在住〉

### フォト歳時記

太陽に向かってスックと伸び、周囲の舌状花がコロナのようだ。お日様の動きと一緒に回るのは嘘だそうだが、クルクルと回転しているようにも思える。

南米のペルーでは自生していて、太陽のシンボルとして崇められている。古代インカの寺にも彫刻が残っていると。古くから知られていたようだ。

この花は終戦の日を思い出させるという。日本の暑くて長い日の象徴として、脳裏に焼きついていると語ってくれた。ヒマワリは夏の記憶を呼び覚ます。

# 『想うまま』

## 旅について考える

昔の旅はテクテクと歩くことだった。

目的の場所へと歩を運び、その途次に邂逅するすべてのことが、旅の対象になっていたのである。それは楽しさよりも不便な中での苦しみの方が多かったと思われる。古い紀行文には苦しみと楽しさが同時に記載されている。街道を歩き村々に寄って、その地の風物や歴史を訪ねたことが丁寧な文章から想像できる。そんな旅の記録は、一本の太い線で貫かれた貴重な証言にもなっているのである。

今はそうした旅をする人はいない。現代の旅は、行程のすべてを乗り物に依存して点から点へと移動することだ。旅そのものが、線から点へと移行したものである。時には不便さに郷愁のようなものを感じて、秘境に憧れたりする

のは昔の旅への思い入れだろうか。しかし、開発され整備され尽くした今では、不便な旅など許されはしない。旅程を気にしながら、時間と競走するような慌ただしい旅が主流になってしまったのである。

芭蕉が著した「奥の細道」は百五十日に及ぶ東北への旅の記録である。当時は随分と不便な地方だったから、さぞや苦勞の連続であったに違いない。止め難い漂白の念にかられて旅立ったというが、自然へと憧れる心のままに、未知の土地に新しい詩境を拓こうとしたのかも知れぬ。その逞しい探求心と健脚ぶりに驚嘆させられる。そんな苦しく不便な旅の出来た時代が、時には羨ましく恋しくもなるのである。

「秘境」という言葉には旅ごころを

刺激する響きがある。この時代、人跡稀な土地など極めて少なく国内では皆無に近いだろう。どんなに人里離れた所でも、道路は完全舗装され車が入り込める感じがしている。静かな寂しい場所も一旦マスコミが取り上げると、忽ち喧噪な観光地と化してしまう。秘境に恋い焦がれて出掛けても、そこは都会の延長に過ぎないのである。不便な辺境の土地ほど都会化されるのが速いようだ。

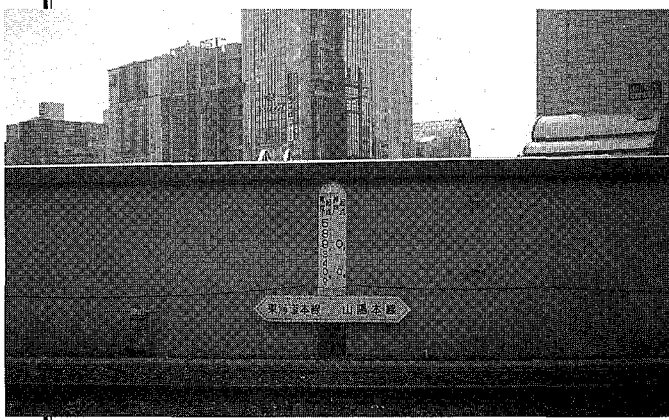
奥能登への一人旅で、半島の先端に近い鉱泉宿に一泊した。電気が通じておらず石油ランプの灯る寂しい宿だが、

魚尽くしの夕食は美味この上なしのものであった。寝転んだ鼻先をフナムシが横切り、打ち寄せる潮騒が耳のそばに聞こえていた。部屋いっぱい蚊帳が吊られ、ランプの芯がジジジと鳴く。秘境と呼ぶに相応しい場所だったが、今も健在だろうか古い思い出である。

「旅は道連れ」というが、その旅で知り合った人から手紙を貰った。道案内をして戴いたので、写真を送ったことから何度か手紙をやりとりした。同じ思い出があるという親しみが、遠い町の人にペンを取らせたらしい。セピア色に褪せた写真が過ぎ去った日のことを思い出させる。

旅に出て困るのは、財布を無くした時と病気になった時だろう。通常生活でも大いに困惑させられる事柄だが、見知らぬ旅先では心細いのはこの上がない。芭蕉が歩いた不便な旅に憧れつつ、便利な観光地ばかりを巡っているが、未知の土地を訪ねることは今後も続きそうだ。しかし、ハイジャックと道連れは願ひ下げである。(〇生)

次回は、MA氏が「名前について考える」という。ご期待を乞う!



# 加工相談



拓水君 「今回は、但馬水産事務所試験研究室で行っている加工相談について、森主任研究員に伺います。」

但馬水産事務所試験研究室では試験研究を行う以外に、加工屋さんや機械、製菓、資材など各種メーカーからの加工相談に応じていますが、年間どれくらいの相談があるのでしょうか？」

森 「加工相談件数の統計を取り始めた昭和五十六年度から今までの年度別相談件数をグラフにしてみました。図1を見てください。」

昭和五十六年度から六十三年度までの相談件数は年間四百程度でしたが、平成一年度からは年間五百件を越えるようになりました。これは消費者ニーズの多様化に対応するため、従来からの加工品だけでなく、新しい製品を扱う機会が増えたことによって発生する問題を解決しなければならなくなってきたこと、新しい技術の導入に関する情報を入手する必要性が増したこと、試験研究室の分析保証試験体制の充実などが大きな要因と思われます。」

拓水君 「では、具体的にはどんな内容の相談が多いのでしょうか？」

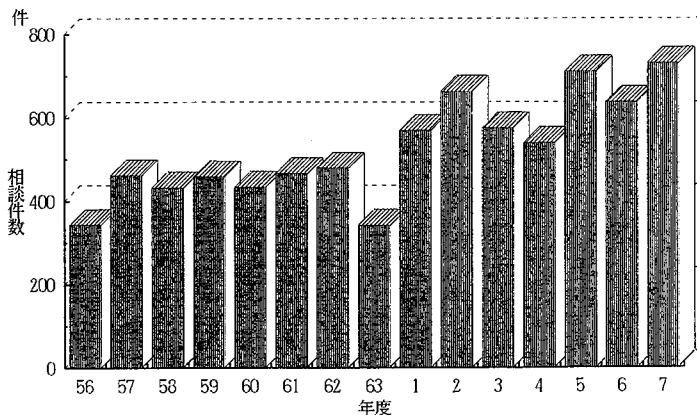
森 「色々な業種の方から色々な内容の加工相談を受けますので、わかりやすいように平成五年度から平成七年度の加工相談を相談内容別に整理してみました。」

まず図2を見てください。平成五年度の全相談件数は七百十件でこのうち最も多かったのは、機械・装置に関するもので二六％に相当する百八十六件あり、労働力不足による加工工程の機械化を望む声が多いことがわかります。以下、分析試験、加工技術、保蔵試験と続きますが、これは、消費者ニーズの一つである高水分・低塩分化に対応するため、自社製品の成分を数値で知っておく必要があること、また、高水分・低塩分化によって従来製品よりも保存性が低下するため、保存性を高めるための新しい加工技術を導入する必要性が増したこと、さらに、消費者ニーズに合わせた新製品の開発を行わなければならない、そのための加工技術の指導、製品の分析・保蔵試験の依頼が増えたことによるものと思われま。

次に図3を見てください。平成六年度の全相談件数は六百三十七件でこのうち最も多かったのは、機械・装置に関するもので全体の二八％に相当する百七十九件あり前年度に引き続き労働力不足による加工工程の機械化を望む声が多いことがわかります。以下、加工技術、食品添加物、保蔵試験と続きますが、本年度は前年度に比べ、分析試験、加工技術に関する相談が減少し、食品添加物、保蔵試験に関する相談が増えました。これは、平成七年度に実施される品質表示方法の改正に伴い、従来の製造年月日表示から消費期限もしくは賞味期限表示に変わると、自社製品の保存性を正確に知る必要性が出てきたこと、また、PL(製造物責任)法の制定に伴い、自社製品の安全性を高める必要性が出てきたため、食品添加物の使用を検討せざるを得なくなってきたことなどが影響しているものと思われま。

最後に図4を見てください。平成七年度の全相談件数は七百三十件でこのうち最も多いものは、加工技術に関するもので全体の二十

図1. 年度別加工相談件数



## NOTE

％に相当する百五十六件あり、分析試験もほぼ同じ百五十件あります。以下、機械・装置、食品添加物、品質、保蔵試験と続きますが、本年度は前年度に比べ、機械・装置に関する相談が減少し加工技術、分析試験に関する相談が増えました。これは、新製品を開発する機会が多くなったこと、平成七年度に実施された品質表示方法の改正に伴い、従来の製造年月日表示から消費期限もしくは賞味期限表示に変わったため、自社製品の保存性を正確に知る必要性が出てきたこと、さらに、市場ニーズに対応するため自社製品の品質や成分を数値で確認しておく必要性が増したことなどが影響しているものと思われま。」

拓水君 「なるほど。加工相談の内容はその時代に業界が直面している問題点を良く表しているようです。そして、相談内容を整理・検討することによって試験研究の役割や方向が明らかになって来るように思います。但馬水産事務所試験研究室には、今後もこれら加

工相談から得られる情報を大切にして、現場で役立つ試験研究を進めていただきたいと思います。」

図4. 平成7年度の加工相談件数

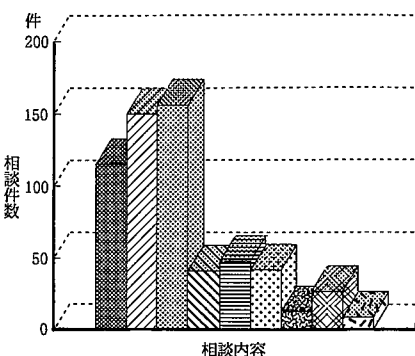


図3. 平成6年度の加工相談件数

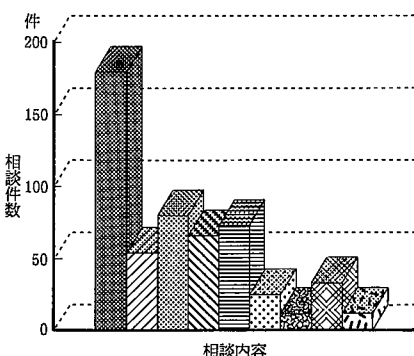
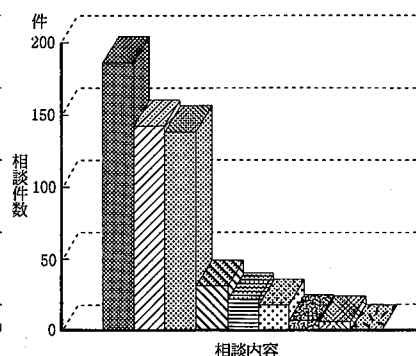
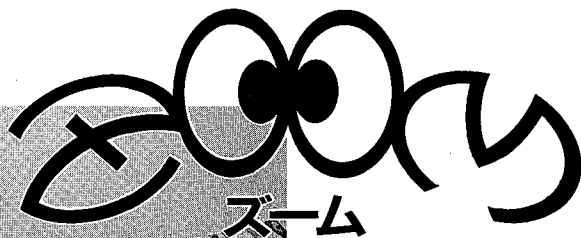


図2. 平成5年度の加工相談件数



■機械装置 □分析試験 ■加工技術 ▨保蔵試験 ▩食品添加物 ▪品質 ▫異物 ▬原料魚 ▮資材



ズーム



# 津名港

## 佐野港区にて

### 第22回 豊漁祈願祭

～マダイ・ヒラメなど稚魚 1万5千尾を放流～

永遠の豊漁と漁業操業の安全を  
祈願する豊漁祈願祭開催



小川県漁連会長による祭詞奏上

去る七月二十四日、県漁連主催により第二十二回豊漁祈願祭が、津名郡津名町の津名港佐野港区に於いて、貝原県知事を始めとする多数の来賓、県下各地から漁業関係者四百余名の参列を得て、盛大に開催されました。

行事は陸上と海上の二部に分かれており、午前十時陸上行事の開式、佐野八幡神社の宮司による神事に始まり、厳肅な雰囲気の中で祝詞奏上があり、小川県漁連会長より祭詞が奏上され全員が祈りを捧げました。順位に従い玉串奏奠を行い神事を終了。そのあと、県漁連会長の挨拶

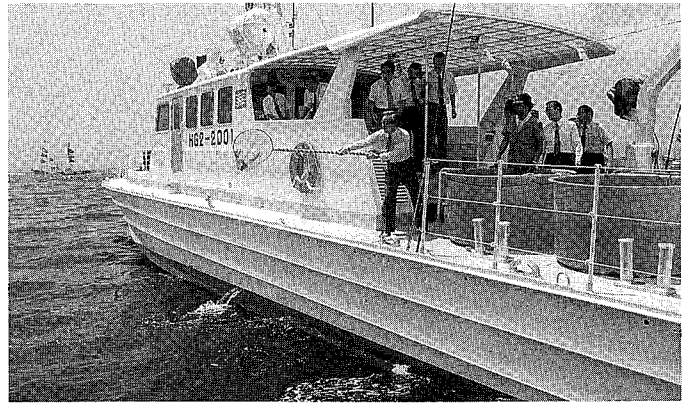
挨拶、来賓の祝辞、祝電披露と続きました。また、生穂第二小学校の子供らによる竜神太鼓が演奏され、炎天の広場に音高く響き渡り祈願祭に華を添えていました。

次に舞台を海上へ移し、県取締船「はやたか」、水産庁漁業取締船「せとうち」および県立水産試験場調査船「ちどり」など、五隻の放魚船に参加者が分乗し、佐野沖にて海上神事が行われ、マダイ稚魚（体調約3cm）一万尾、ヒラメ稚魚（体長約5cm）四千尾やマダイ成魚二十尾などを放流したのち、県議会議員永田先生の発声により、貴重な資源の繁殖を念じて万歳三唱が行われました。協賛の動員船六十隻が大漁旗を掲揚してのパレードは海上を華やかに彩り、豊漁への祈りを盛り上げていきました。



挨拶をする小川県漁連会長

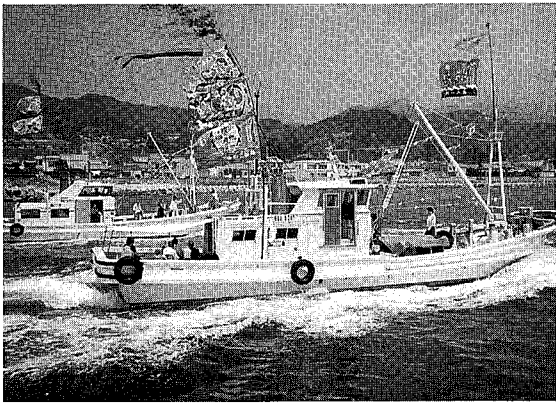
はやたか船上での万歳三唱



貝原県知事による放魚

次代を担う子供たちに  
漁業資源の重要性を知ってほしい

海上行事に平行して陸上では、佐野小  
学校と生穂第二小学校の生徒(約六十名)  
による岸壁放流が行われました。放流す  
る稚魚は、明石市南二見にある栽培漁業  
センターで孵化したヒラメ約千尾。朝早  
くこの地へ運ばれた稚魚は岸壁に設置し  
た水槽から、子供たちが手にする容器に  
移され、次々と港の中へ放されました。  
稚魚を目にするのは初めての子供たちが  
殆どで、自分の手で放流したことが夏休  
みの貴重な体験となることと思われます。  
本年から七月二十日が「海の日」とし  
て国民の祝日となり、海への関心が高まっ



佐野沖での漁船パレード

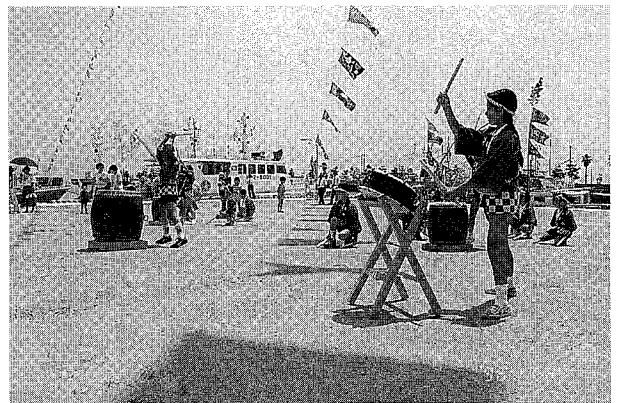


子供らによるヒラメ放魚

ている中で「豊漁祈願祭」は意義深い  
ものがあり、海の恵みへ感謝をし海洋国  
としての繁栄を願うことこそ豊漁祈願祭  
の本願でもあろうかと思われます。これ  
からの漁業は、資源管理と保護増殖を推  
進することが再重要なことでもあります。  
また、国連海洋法条約が発効し、国の周  
辺水域に二百海里線が設定されることに  
なりました。今後は条約締結国として排  
他的経済水域の合理的な活用が推進され  
ることとなり、漁業界の懸案だったもの  
が一步前進し、新たな時代を迎えたよう  
に思われます。漁業界のますますの発展



ヒラメ稚魚約千尾が放された



龍神太鼓を打つ子供たち

を願い、但馬海域、瀬戸内海海域での操  
業安全と永遠の豊漁を祈念してやみませ  
ん。

# TOPICS

## 平成8年度 兵庫県漁業士会 通常総会を開催!!

去る八月三日に兵庫県立水産試験場大研修室において、兵庫県漁業士会通常総会が多くの来賓並びに会員の出席を得て盛大に開催されました。

漁業士会は平成四年九月に発足し、今回で第四回目の通常総会となります。

今年第一号議案として「平成七年度事業報告書、貸借対照表、収支決算書、剰余金処分案承認の件」、第二号議案として「平成八年度事業計画書及び収支予算設定の件」が提出され、議事は滞りなく進行し原案通り承認されました。

また、今年任期満了に伴う役員改選の年にあたり、これまで会長として活躍いただいた小南慶三氏が勇退され、役員選任の結果次の方々が役員となりました。

- 会長 中村 新一氏
- 副会長 魚住 幸市氏
- 原田 正夫氏
- 山田千賀子氏
- 吉田 澄平氏
- 大里千枝子氏

さらに総会終了後、水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長岡本純一郎氏より瀬戸内海の漁業の特色や漁業を巡る環境を踏まえ、漁業の将来像を探る数々の示唆を含んだ講演をいただき有意義な時間を過ごしました。

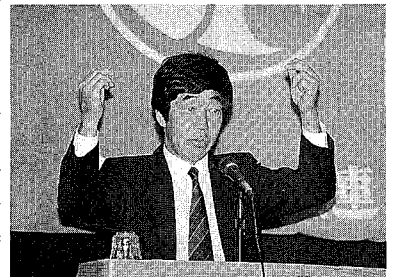


## 第74回国際協同組合 デー兵庫県記念大会 開かれる

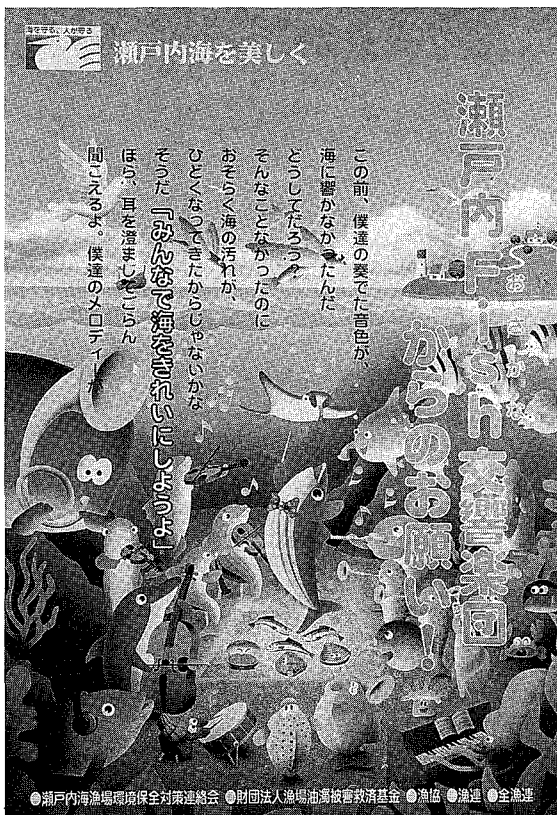
去る七月五日に、生協、JA、漁協、森林組合で組織している兵庫JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）の主催で第七十四回国際協同組合デー兵庫県記念大会を生活文化センターで開催しました。この大会には兵庫県農林水産部長をはじめ神戸市産業振興局長、インドネシアとモンゴルの協同組合の女性代表など多くの来賓を迎えたほか、コープこうべをはじめ県下の生協、JA、漁協、森組の組合員・役員など約五百人が参加しました。開会にあたり、小川兵庫県漁連会長から「協同組合間提携の更なる拡大強化に努力し、新たな一歩を踏み出したい」と挨拶があり、つづいて貝原兵庫県知事（代読）と笹山神戸市長（代

読）から祝辞が寄せられ、このデーに招いたインドネシアとモンゴルの協同組合の女性代表から挨拶がありました。記念大会のまとめに兵庫JCC宣言案を兵庫県JA女性協議会の堀副会長から提案され、参加者全員の賛同を拍手により確認し、地域の発展のために改訂協同組合原則の精神をいかして共に手をつないで、協同組合運動の発展に寄与しようと呼び合いました。

記念講演では、日本人初の宇宙飛行士秋山豊寛氏が「宇宙から地球を、緑を、食を考えると」と題して「宇宙から見た地球は神秘的な生命体で食の原点であると感じた」などと話し、参加者は熱心に聴いていました。

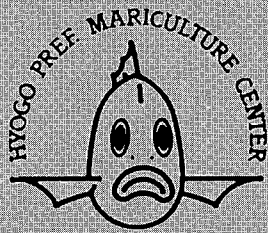


記念講演をする秋山豊寛氏



瀬戸内海漁場環境保全対策連絡会で作成の啓発ポスター





# 栽培漁業センターです

# 95

着底前のオニオコゼ仔魚(ふ化後十五日目、全長九㎝)



夏も終わりに近づくと南から台風がやってきます。ご存じのように我が栽培漁業センターは広い敷地を有していますので、やっと一段落した種苗生産事業に使っていた飼育資材や置水槽などが屋外に散乱しています。もちろん男ばかりのむさ苦しい職場なので後片付けをかつちりするようなきれいな好きはありませんが、一度台風接近の情報が入ると職員全員あわてて風で飛びそうなものを片付けて、屋外はあつという間にきれいになります(屋内はガチャガチャですが)。こういったわけで先日通過した台風十二号でも被害はほとんどありませんでした。

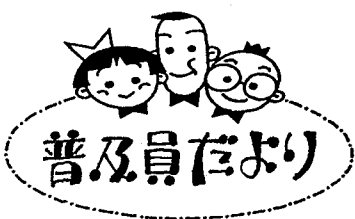
さて真夏の種苗生産事業の結果を順にお知らせしますと栽培漁業センターのマダイは七月十日から二、三日の間に二十ミリサイズの稚魚を、中間育成用種苗として計百十八万七千尾関係各市町に配布して無事業を終えました。

二見事業場のガザミの種苗生産事業も無事終わって、五月二十七日から八月五日の間に計五百二十六万七千尾の稚ガニを配布しました。

協会津名事業場で行っているクルマエビの種苗生産事業は、七月

三十日、三十一日、八月五日の三日に分けて、平均全長十四・九ミリから十七・九ミリに育った稚エビを、計五百三十九万二千尾配布しました。現在第二回目の飼育を始めています。

二見のセンターでは種苗生産シーズンが終わったこの時期から、飼育期間中に集めた膨大なデータを抱えてパソコンとにらめっこしている職員が多くなるのですが、私は担当のオニオコゼの種苗生産試験を始めています。オニオコゼの種苗生産では毎年飼育初期の仔魚が摂餌を始めるまでに減耗が大きく、取り上げまでの生残率は良くても三十%前後と他魚種に比べて悪いことが問題となっています。今年は卵の質の問題があると考えて、警沢にも活きエビなど卵質が向上するとされている餌を与えて採卵に臨みましたが、思ったように卵が採れませんでした。飼育を始めたのも七月末と例年より一カ月程度遅れてしまい、飼育水温二十七度台というほとんどぬるま湯状態の中での種苗生産でしたが、生残率は悪いものの来月の中旬には全長二十ミリサイズに成長した稚魚の姿を見ることができそうです。(兵裁協 楽 敦司)



## 魚料理の美味しさ楽しさの普及をめざして――

先頃、管内の漁協婦人部の部長さんから魚食普及の講習会での出来事をお聞きしました。「魚のおろし方がわからない若い人も多いけれど、年配の方で、魚を煮るのに鰹や昆布のだしをとって煮る人がいるの。びっくりし

てね。アイデア料理も必要だけど、焼き方・煮方等本当の魚の味を知ってもらう料理の仕方が必要だと感じました」と話されました。確かに鮮度も大切ですが、煮ている魚から出る味が魚を最も美味しく食べる方法です。昆布や他の魚の味はいいのです。

兵庫県は南北を海にはさまれ新鮮な魚が豊富に手にはいる環境にあります。日常の食卓に美味しく調理された水産物がのるのはです。しかし、現状は切り身にされた輸入品と思われるお手軽な魚が購入されて行きます。近所のスーパーでも「昼網」とかかれた1尾物を購入するのは年配の方がほとんどのようです。扱い方がわからない後始末がいやだ等理由は色々あると思いますが…。また、先日子供の好む料理を発表していましたが、今回はじめて「すし」が第1位になったそうです。もちろん「握り鮎」です。魚を食べるひとつの料理法なのですが、以下のランクには、やはり

カレーや焼き肉が並んでいました。魚の国日本はどこへ行ったのでしょうか?

明石支所の管内の漁協婦人部やひょうこふるさと名人は小さい子供を持つ母親やこれから台所に立つ若い女性を対象に魚食普及の活動を展開されています。魚のおろし方・刺身の切り方・煮魚・焼き魚等基礎をきちんと押さえてもらい、その上でアイデア料理で魚料理の美味しさ楽しさを知ってもらっています。

「魚料理は難しいと思っていたのですが、以外と簡単で子供と一緒に魚料理に挑戦しています」と、ある講習会に参加した若いお母さんのうれしい感想を聞きました。各地域でも普及活動の実績を積んでおられると思います。成果は着実に根付いていると思います。

婦人部員の皆さん魚料理の基礎をもっと消費者に広めていきましょ。

加古川農業改良普及センター  
明石支所 北本 則子

# 漁海況情報

兵庫県立水産試験場

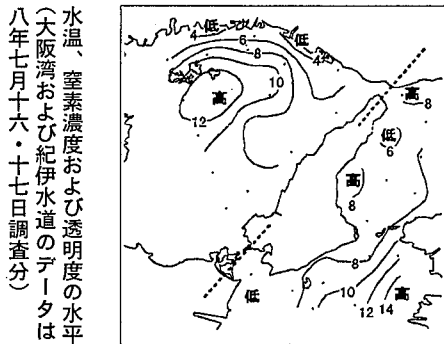
平成8年8月

珪藻が多く発生している。灘中央部にはノクチルカの赤潮がみられる。  
 △栄養塩 播磨灘の溶存態窒素は表層で平年並の値、10m層、底層では平年に比べやや低い値を示している。溶存態リンは表層、底層が平年並、10m層が平年に比べやや低い値、珪酸は表層、10m層、底層とも平年並の値を示している。

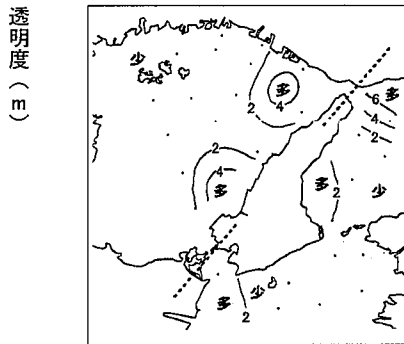
## 海況

△概況 播磨灘北部沿岸の表層では、水温の上昇が著しく、一部で30℃を越えるところもみられるが、10m層や底層の水温は、平年並の値を示している。七月は六月に比べ降水量が少なく、表層の塩分は先月に比べ上昇した。灘表層の十五点平均値は三十二・二と平年よりやや高い値、10m層では三十二・二六と平年に比べかなり高い値を示している。透明度は幾分上昇し、十五点平均値で九mと平年並の値を示している。栄養塩類濃度は、先月に引き続き、溶存態窒素、リン、珪酸とも平年並かやや少なめの値を示している。植物プランクトンも、先月同様播磨灘北部沿岸域を中心に、小型珪藻が多く発生している。また昨年7月末から8月にかけて漁業被害をもたらした渦鞭毛藻ギムノディニウム・ミキモトイが、播磨灘北部の10m層で、海水一ミリリットルあたり数十から数百細胞の密度で発生している。今後さらに増殖する恐れもあるので、関係者は注意を要する。

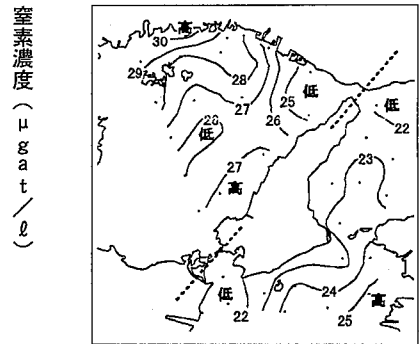
△小型底曳網 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網(ちんづ)では、サルエビ、マダコ、マダイが主に漁獲されている。紀伊水道北部では、引き続き小エビ類が主に漁獲されており、船によってはマアジの大量漁獲も見られる。  
 △一本釣・曳網釣 明石海峡及びその周辺海域では、スズキ、マアジ、タチウオ等が漁獲されている。紀伊水道北部では、引き続きマアジ、ハモが漁獲されているが、マアジは減少傾向にある。



水温(表層水)  
 水温、窒素濃度および透明度の水平分布  
 (大阪湾および紀伊水道のデータは平成八年七月十六・十七日調査分)



透明度(m)



窒素濃度(µg/l)

## 海区漁業調整委員会だより

七月二十六日  
 兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会委員協議会を有馬温泉「角の坊」で開催

一、漁海況予報について  
 カタクチイワシ・マイワシ・ホタルイカの生活史、漁況予報及び水温、海流・プランクトン・栄養塩等の海況予報について、県立水産試験場より説明が行われた。

七月二十二日  
 第三百八十六回但馬海区漁業調整委員会及び委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催

(委員会議事)  
 一、小型機船底びき網漁業(手繰第一種漁業)の許認可取扱方針について(諮問)  
 平成十一年五月三十一日までを許可の有効期間とする当該漁業の許認可取扱方針案が県から諮問され、全会一致をもって原案どおり決定して差支えない旨答申することを議決。  
 二、せん漁業(へにすわい)がいかか漁業)の許認可取扱方針について(諮問)  
 平成十一年六月三十日までを許可の有効期間とする当該漁業の許認可取扱方針案が県から諮問され、全会一致をもって原案どおり決定して差支えない旨答申することを議決。  
 (委員協議会議事)  
 三、全漁調連日本海ブロック会議の提案議題について(協議)  
 六月の委員協議会で議題として「沖合漁業整備開発制度の創設」を要望することに決まったが、その提案理由について協議された結果、原案が了承された。

訂正(お詫び)  
 七月号TOPICSの第二十四漁青連総会の記事中に誤りがあります。お詫びして訂正いたします。  
 誤 来賓の本下県水産課長  
 正 来賓の佐野県水産課副課長

躍動する海  
活動する

鋼製魚礁  
神鋼

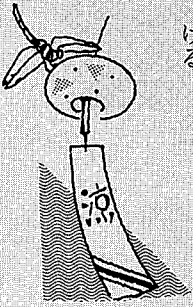
神戸製鋼グループの魚礁メーカー  
**神鋼建材工業** 株式会社  
 本社 〒660 兵庫県尼崎市丸島町46番地  
 TEL (06)418-3797 FAX (06)418-2423

◆材料・分量◆

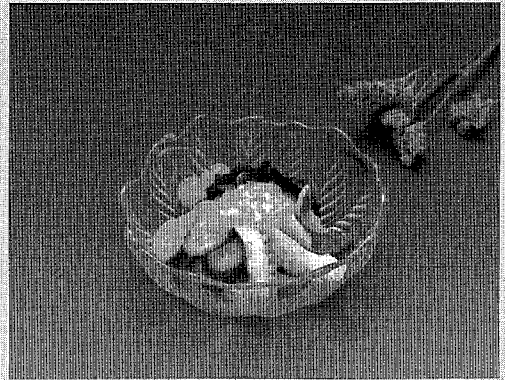
ゆでだこ ..... 200g  
 塩わかめ ..... 50g  
 きゅうり ..... 200g  
 酢 ..... 大さじ1  
 塩 ..... 少々

(黄身酢)

卵黄 ..... 1個分  
 酒 ..... 大さじ1  
 酢 ..... 大さじ2  
 砂糖 ..... 大さじ2  
 塩 ..... 小さじ½



- ◆作り方◆
- ①ゆでだこは、薄いそぎ切りにする。
  - ②塩わかめは、洗って食べやすい大きさに切り、酢をふりかけておく。
  - ③きゅうりは、きざんで塩もみする。
  - ④卵黄を酒でとき、酢・砂糖・塩を加えて湯せんにかけしやもして混ぜ、とろっとなたら引き上げてきます。
  - ⑤①②③を盛りつけ、④をかける。



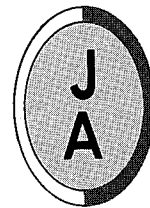
五色町漁協・鳥飼支所婦人部

旬の美味い話 ④

●たこ・わかめ・きゅうりの黄身酢あえ●



兵庫JCC通信  
 今、JA・生協では



「96市民平和行進」  
 県内を約6,000人が歩きました

七月七日〜十六日の十日間、炎天下のなか、約六千人の生協組合員・職員・労働組合、宗教者NGO、市民らが、核兵器と戦争のない平和な世界を求めて歩きました。

今年のスローガンは、「核兵器をすみやかに廃絶しよう」「核戦争をおこしてはならない」「被爆者の援護と心を受け継ごう」。

「被爆者の援護と心を受け継ごう」。

行進団は、スローガンや平和の歌を口にしながら、チラシやうちわを沿道の人たちに配り、明るく楽しく平和を訴えて歩きました。

昨年同様、被災地域の行進を取り止めざるを得ませんでした。今年も、全面的に復活し、例年を上回る参加者でした。

県内のコースをリレーでつなぐ通し行進を、コープこうべと阪神医療生協が行いました。行進の間、通過自治体のすべての市(町)長から、激励のメッセージをいただいたほか、合計六万六千円の協賛金(カンパ)をいただきました。

このカンパは、一部を行進費用に充て、残額はコープこうべを通じ、原爆病院に寄贈することとしています。

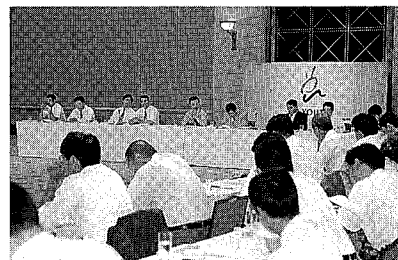
なお、この行進団は、五月七日に東京夢の島にある第五福竜丸記念館を出発して歩きつづけているもので、八月四日、被爆地ヒロシマに着きます。

これからは県下の生協では、地域の協同・連帯を大切にしながら、平和活動の輪を広げていきます。



96市民平和行進 (神戸市庁舎前で)

第2回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議開く



25日に開かれた合同会議の様子

JAの青年部活動については、近年では高齢化の進行、またJA自身の広域合併がすすめるなか、青年部としての活動目的が不明瞭になりつつあることから部員の減少、および求心力の低下が危惧されていますが、JA全青協では

生産者と消費者の「顔の見える関係」づくりをテーマに、食品の安全性に対する関心を深め、積極的な学習活動を啓発しています。

この会議では、例年開催されるアグリフォーラム、および全国青年大会において、いかに消費者との交流を有効に展開するかについて、議論が交わされました。また、JAが広域合併を行った際に、旧JA単位で青年部があるJAと、ないJAが混在する場合、どのように対応すべきかについて検討されました。ほかに、青年部員の加入促進について幅広くPRするためのパンフレット作成について、また、新たに制定される農業基本法への対応についてなどが協議されました。

翌日二十六日には清水委員長管内であるJA Aささやま生産部、および特産館ささやまにて、西田一治JA Aささやま組合長を交えて、現地視察が行われました。

●サンテレビの

# こちら海です



見事なアマゴにウツトリのリポーター



ウナギのモンドリを手にサーー、とれるかなツ



鮎つりに挑戦

'96.8月4日放送  
(第984回)

## ロケだより

## 川のめぐみ 円山川の淡水魚

～兵庫県円山川流域より～

豊岡盆地をぬうように流れる、但馬一の川・円山川。円山川は全長約六十八キロ。その支流を合わせると、但馬一市十八町のうち、一市十二町を潤し流れる文字通り但馬の母なる川です。流域面積は、兵庫県全体の四分の一を占める但馬地方の六割もの面積。流域の人々は様々な川と関わって暮らしてきました。今回は円山川の淡水魚をテーマに、朝来町の田路川、関宮町をぬけ養父町から本流の円山川に合流する大屋川、八木川とその支流の小佐川等に色々な淡水魚や水棲昆虫を求めて歩いてみました。淡水魚の種類は減ってきている種類もかなり見られると云うことで、八鹿町のライオンズクラブでは、住民が一体となって川の調査に取り組むなど、水辺りの環境が色々な環境にとっても大切と見なおされています。その中心的役割をなされている、守本陸也さんのお話には、川の源は山、海の源は山：すべての生態系を守る山である。と云う興味深いお話をお伺いしました。何年も何十年もかかって積もった山や森の落葉、雨水がその落葉にしみ込んで樹の根を伝わり、地下水が地表を流れ川に流れ込む、その小さな流れは落葉や山の小さな微生物を川に運び、それが川の栄養分となって小さな水棲昆虫の餌となり、又、川の魚は水棲昆虫を餌として育つ。そしてその栄養を含んだ水が海に流れ込んで、海のリンやチッソ、ケイ素等の栄養塩類になるのです。山が海を育てていると云うお話。そして、水棲昆虫の研究で知られる西村登さんのお話には、子供たちに環境の大切さを教えるのに、川を汚すな、自然は大事にすると言っても無理、小さい頃から自ら自然に目を輝かせようという指導が大切と伺いました。小さい頃に自然に自然に輝かせる情操を持つと大

きくなっても体で自然の大切さを覚えていると云うのです。成程。そんな興味深いお話を聞いて川に入りました。ちょうど鮎釣りの最盛期、八木川で獲れた鮎を地元の人々は八木太郎と呼んでいます。それに対して、隣の大屋川で獲れる鮎が早いと川底が荒く、八木川の流れるが早いと川底が荒く、顔が扁平になって肩の盛り上がった鮎を育て、味も中々と八木太郎の名が付いたそうです。そして、八木川の上流の小佐川で、この時期には釣りにくいと云われる、アマゴの三十センチ：中々川は楽しいものでした。この川の楽しさと淡水魚の増殖と養殖の為の施設、兵庫県立水産試験場・内水面漁業センターが出来たのは平成七年。田路川の上流の内水面漁業センターは色々な前記の研究等に加え子供たちにも見学できる、円山川とその支流に棲む淡水魚を展示しています。面白いことで改良した魚にアマイワとニジイワがありま。アマイワはアマゴの卵にイワナをかけたもの、ニジイワもニジマスにイワナをかけた、養殖に適したウイリスに強い魚をつくる試みです。その他にチヨウザメの養殖：チヨウザメは一年で五十センチ二年で一メートルにも成長するとは知りませんでした。ちなみにキャビアが取れるようになるには八年程かかるそうです。それと、もう一つの遊び場：大野町のあゆ公園、最近川遊びをする子供たちが少なくなったと、川遊びの場が段々失われて行くので、思いっきり川であそんで淡水魚に親しんでほしいと誕生しました。ここには大屋川に棲む淡水魚がすべて展示されている全国的にも珍しい小さな水族館もあります。地元の人々が獲れたカメラを持って来たり、町民皆で作られた水族館の趣。海の入口は山です。

1996年8月10日発行 通巻478号  
昭和32年10月18日 第3種郵便物認可  
発行人 兵庫県漁業協同組合連合会  
発行所 (財)兵庫県漁業協同組合連合会 兵庫県水産振興基金  
〒652 神戸市兵庫区中之島2-2-1 TEL 652-3424 定価80円(本体78円)  
FAX 671-6685